

令和6年 年頭あいさつ

多様な連携による 「挑戦」と「変革」を



舞鶴商工会議所
会頭 小西 剛

あけましておめでとうございます。

皆様には、令和6年の新春を健やかに迎えのとお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い社会経済が動きはじめたものの、ロシアのウクライナ侵攻などによる燃料・原材料の高騰、また、急速な円安や物価上昇に見舞われ、事業者の多くは厳しい経営環境にさらされ、地域経済にとっても、依然として出口の見えない状況が続いた一年でありました。

舞鶴商工会議所が一昨年行った産業政策に関する提言では、舞鶴が造船業で培ってきた技術を活かした「新たな海洋産業の担い手となる都市」と、脱炭素社会を目指す時代の潮流を見据えた「次世代エネルギー産業を担う都市」を都市像の方向性として、次の世代に向けた産業基盤の構築について訴えました。

現在、舞鶴火力発電所においては、脱炭素社会構築への取り組みとして、排気からCO₂を分離して回収する実証実験や、液化CO₂を船舶輸送する実証事業が進められています。国の次世代エネルギー政策に向けた取り組みが舞鶴で行われていることを頼もしく思うとともに、今後、京都舞鶴港が国のカーボンニュートラル政策を実現する日本海側の港湾として、水素やアンモニア等の次世代エネルギーを取り扱う港となることを期待するものであります。

このような今後の舞鶴を支える産業基盤の構築が加速化することを切に願うものであり、そのために地域が一つになり、地域の将来像とそこに至る戦略を共有し、国や府、関係機関に対し地域の想いを届けることが重要であると考えておりますので、ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

また、舞鶴商工会議所といたしましては、このような将来戦略とあわせて、地域の事業者をしっかりと支援することにより地域経済を活性化していきたいと考えております。事業者においては、後継者問題と事業

承継、経営基盤の強化や、DX等による生産性の向上の取り組みなど、様々な経営課題が山積しておりますが、このような課題に対して、会議所や行政、金融機関、経営支援機関が一体となってチームサポートする地域産業のプラットフォームを構築しようと、舞鶴市とともに事業の具体化を進めているところであります。

この計画を早期に実現させ、事業者に寄り添ったきめ細かな支援サービスを提供するとともに、新たなチャレンジへの支援体制をしっかりと構築し、地域内経済の活性化につなげてまいりたいと考えております。

経済環境や社会構造、人々の意識と行動などが目まぐるしく変化する現代社会においても、地域と企業が永続的かつ安定的に成長を続けるためには、多様な連携のもと、その時々状況に即した「挑戦」と「変革」を続け、経営環境をアップデートしていかなければなりません。

地域社会と事業者の多様な連携を創出する中で、それぞれの課題解決につながる取り組みを共創し、地域産業基盤の構築と新たな舞鶴の価値創造に努めてまいりたいと考えております。

舞鶴商工会議所は、引き続き、舞鶴市や、国・府、また、関係機関、諸団体との強固な連携のもと、組織を挙げて諸課題に取り組んでまいりますので、皆様の一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。

